



福岡県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

福岡県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業については、福岡県内の各地域に根ざした伝統文化・伝統行事等を通じて、文化の振興と地域の活性化を図ることを目的としています。

市民と共にミュージアムIPMについては、九州国立博物館が推進するIPM活動を支援するボランティアの育成をふまえた、ミュージアムIPMの研修会や広報普及活動を通じて地域連携強化を図ります。

実施体制としては、福岡県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業については、「福岡県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業実行委員会」の構成員は、福岡県新社会推進部県民文化スポーツ課、企画・地域振興部広域地域振興課、公益財団法人アクロス福岡、京築神楽の里推進協議会、京築連帯アメニティ都市圏推進会議です。

なお、「楽しく遊ぼう！かるた祭り」は福岡県新社会推進部県民文化スポーツ課が、「京築地域「文化の力」による地域活性化プロジェクト」は福岡県企画・地域振興部広域地域振興課が指導・調整にあたりました。

市民と共にミュージアムIPMについては、「市民と共にミュージアムIPM実行委員会」の構成員は、九州国立博物館、福岡県教育委員会、春日市教育委員会、大野城市教育委員会、太宰府市教育委員会、筑紫野市教育委員会、那珂川町教育委員会、九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会です。

なお、事業の実施に当たっては、福岡県教育庁教育企画部社会教育課が指導・調整にあたりました。

2 補助事業名

- ①福岡県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業
- ②市民と共にミュージアムIPM

3 補助事業者名

- ①福岡県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業実行委員会
- ②市民と共にミュージアムIPM実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①福岡県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

○地域の文化遺産普及啓発事業

- a 京築神楽の普及啓発事業、魅力発信のためのPR事業
 - (a) 京築神楽 博多公演

京築地域に伝わる神楽を地域外の人にアピールするため、九州観光の中心的拠点であるJR博多駅構内において、4団体による公演を行いました。

(b) 京築神楽鑑賞モニターツアー

京築地域の神楽を地域外の人にアピールするため、福岡都市圏住民を対象とし、豊前市で開催される京築神楽定期公演の鑑賞モニターツアーを行いました。

○地域の文化遺産継承事業

a 後継者育成事業

(a) 情報交換会

京築地域内の神楽団体相互の連携への機運醸成、後継者育成に向けた課題抽出のため、地域内の神楽団体を対象に講演を行いました。

(b) 団体連携による継承への取組に向けた調査研究

京築地域内の神楽団体を対象に、団体構成及び現状の課題や今後の展開の意向などについてアンケート調査を実施し、上記(a)の情報交換会の場において、後継者育成や連携への課題等について、ヒアリング調査を実施しました。

また、情報交換の活発化や他地域との交流、経営的視点を持った神楽運営団体形成について検討を行いました。

b 体験事業

(a) かるたで遊ぶ

福岡県は日本のかるたの発祥地と伝えられていることから、正月の伝統行事として、伝統文化を継承し、県民に向けてかるたの起こりや変遷を紹介するため、かるた大会などのワークショップ、講座を行いました。



食育かるた

(b) 京築神楽体験事業

京築神楽の後継者育成の一環として、後継者となる人材を発掘するため、神楽団体を講師に迎え、京築地域内の小中学生を対象に、体験講座を行いました。



京築神楽体験事業

c 用具の新調・修理

京築神楽において使用する神楽面の状況を把握するため、各神楽団体に対する調査を行いました。

○その他事業

a 神楽等ボランティアスタッフ育成事業

京築神楽をアピールする人材を育成するため、「神楽の基礎知識」「京築地域と神楽」「神楽による地域づくり、おもてなし」をテーマとした講座を行いました。

b 地域の文化遺産を活かした観光振興方策の調査研究

京築地域の文化遺産について再整理し、広域的な観光振興に活かしていくことを目的とした観光プログラムについて、調査研究を行いました。

②市民と共に ミュージアムIPM

市民協同型IPM（総合的有害生物管理）活動による生き活きとしたミュージアムの実現と共に、IPM支援者育成研修や交流活動をとおして地域連携強化を図り、併せて館種や設置目的を超えたミュージアムの活性化を図ります。

併せて、IPM支援者が担う新たな博物館業務開拓・雇用創出等による地域活性化への貢献も目指しています。



IPM支援者研修会（基礎編）

内容は、専門家・機関等と連携しつつ、ミュージアムIPM支援者研修会（基礎編）を行うと共に、フォローアッププログラム構築へ向けたモデル研修会や公開シンポジウム「市民と共に ミュージアムIPM」修了者報告会を開催しました。

また、全国のミュージアムを対象に、IPM導入の実態に関する基本調査を行うと共に、IPM事業の内容を総括した報告書を刊行しました。

5 計画の実施の効果

①福岡県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

福岡県内の各地域のかるた団体と連携を図り、地域発のかるたを紹介することができ、地域間でかるた文化を継承していくことに繋がりました。

普及啓発事業では、公演とモニターツアーを通じて、外国人も含めた都市住民に対して、京築神楽の認知度を向上させることができました。博多公演のアンケートでは、多くの観客が「京築神楽を見に行きたい」と回答しました。

継承事業では、情報交換を通じて神楽団体の間に連携への機運が醸成されました。体験講座には定員を上回る参加者があり、多くの子どもたちが地域の文化遺

産としての京築神楽に関心を持つようになりました。また、講師となった神楽団体においても、後継者育成への意識が喚起され、具体的な取り組みを始める契機となりました。

その他の事業では、ボランティア育成講座に地域内各市町から一般住民が参加し、京築神楽の文化的価値に関する知識やガイドの技術を向上させることができました。

②市民と共に ミュージアムIPM

市民協同型IPM活動による生き活きとしたミュージアムの実現をとおして地域連携強化ならびに新たな職種創出による地域活性化を目指すための基盤構築をスタートすることができました。

また、IPM導入の実態を簡潔に把握するアンケート調査方法を確立しました。

6 今後の予定

①福岡県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

近年地域活性化の取り組みの一つとして製作が盛んな郷土かるたの展示を中心に、かるた大会などのワークショップ、講座を開催します。歴史や風土が盛り込まれた郷土かるたを通して、地域の特色も紹介します。

また、一種のかるた遊びのみならず、かるた全般について継承していくため、かるたの歴史や福岡県とかるたの関わり、かるたの遊び方を掲載したかるたが学べる冊子を作成する予定です。

普及啓発事業については、福岡都市圏だけでなく北九州都市圏においても京築神楽の認知を向上させるための公演等のPR事業を実施します。

継承事業では、引き続き情報交換を通じて連携に向けた機運を高めるとともに、神楽団体の連携のもとで具体的な事業を実施します。

その他事業では、京築神楽のガイドができる人材を



京築神楽鑑賞モニターツアー

育成するとともに、京築地域の文化遺産を活かした観光プログラムについて、試行的にツアーを実施します。

②市民と共に ミュージアムIPM

ミュージアムIPMの研修会や広報普及活動をとおして地域連携強化の輪を広げると共に、研修プログラム基礎編を実施し、技術編・実践編の確立・実施を目指します。

また、IPM導入の実態に関する全国調査を行い、その調査結果を活かした事業計画の検討改善を行います。



佐賀市文化遺産活用「まちみがき・人みがき」事業

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

①地域の文化遺産普及啓発事業（地域）

(1) 地域の歴史文化資源調査活用事業

点在する文化遺産（文化財指定の有無を問わず）を、市民や来訪者に周知するための案内ポイントや観光ルートの検討を行います。

(2) 水辺再生事業

佐賀城下に水を供給する河川や水路の役割や重要性、現状を市民とともに再認識するための取り組みを行い、城下町の水辺環境保全の啓発活動につなげます。

(3) さが城下塾開催事業

佐賀城下の歴史や多様な生き物と人が共に生きる地域づくり（環境）についての講座やお濠めぐり等の体験行事（会）を開催します。

②その他事業（地域）

(1) 観光可能性調査事業

佐賀城跡（県史跡）を中心とした観光客の受け入れについて、モニタリングツアー、アンケート調査を通じてニーズ把握を行い、新しい観光開発に取り組みます。

③地域文化資源活用事業（ミュージアム）

(1) 明和屋敷帳出版事業（平成23年度事業完了）

明和8年（1771）作成以降、居住者の転出入を明治初頭頃まで書き継いだ「明和屋敷帳」は江戸後期100年間の佐賀城下を知る上での基本資料です。平成22年度事業により解説・翻刻作業を進め、平成23年度事業で出版しました。平成24年度以降はこれを読み解き作業に活用し、その成果を探訪会・展覧会等で報告します。

(2) 御城下絵図活用事業

平成21・22年度「文化庁支援事業」により7種の城下絵図の高精細データ化・パネル化を行い、平成23年度では6種の翻刻作業を行いました。その成果を活かし平成23年度に翻刻図を付して絵図1種を複製頒布しました。また平成23年度で構築した佐賀城下に関する資料・情報を集約・一元化し検索可能な形で管理する「佐賀城下情報集約システム」について、平成24・25年度は文献資料を調査・翻刻するとともに入力します。

(3) 探訪会開催事業

各回テーマを決め、資料・マップ等を作成し佐賀城下の探訪会（まち歩き）を実施します。

(4) 展覧会等開催事業

財団法人鍋島報効会所管の徴古館（登録博物館）において、展覧会、ワークショップ、講演会等を開催します。実施体制としては、以下のとおりです。

さが城下まちづくり実行委員会（会長：堤清行）

13団体

構成団体：財団法人鍋島報効会、特定非営利活動法人

NPOまちづくり研究所、幕末佐賀研究会、佐賀大学都市工学科後藤研究室、塚崎・唐津往還を歩く会、特定非営利活動法人技術交流フォーラム、森と海を結ぶ会、佐賀城を愛する会、鍋島文化を支える会、久保造園・STSエンタープライズグループ、佐賀県、佐賀市、佐賀市教育委員会

2 補助事業名

佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう！（第三弾）～水のまち、さが城下の魅力再発見～（地域・ミュージアム）

3 補助事業者名

さが城下まちづくり実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう！（第三弾）～水のまち、さが城下の魅力再発見～（地域）

○地域の文化遺産普及啓発事業

(1) 水辺再生事業

・お濠めぐり舟の体験乗船を行い、全国有数の城濠のPRや活用についての検討（アンケート調査等）を行いました。

17日間、19回実施（自主事業を含む）参加者数：413名



お濠めぐり舟の体験乗船
水辺再生事業（地域）

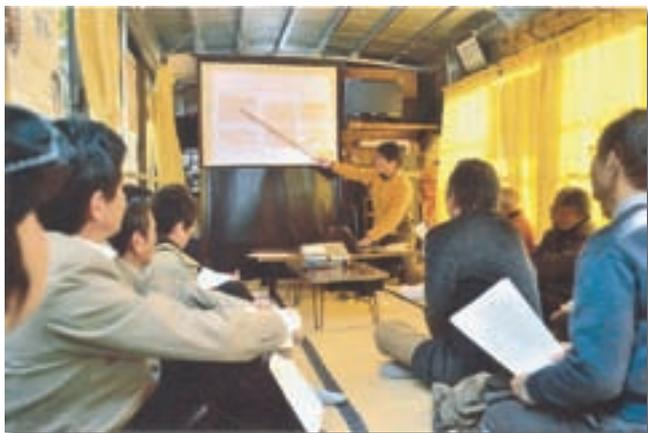
(2) さが城下塾開催事業

- ・城濠近くの赤松小学校の生徒と保護者を対象に水辺環境講座と歴史・環境に関するイベントを開催及びお濠めぐり舟の体験乗船を実施しました。

参加者数：約170名

- ・環境講座「生物多様性とは何か」と歴史講座「生物多様性と幕末佐賀の地域づくり」を開催しました。

4回／4日（自主事業を含む） 参加者数：約120名



環境講座・歴史講座
さが城下塾開催事業講座（地域）



水辺環境講座（赤松小学校）
さが城下塾開催事業講座（地域）

○その他の事業

(1) 観光可能性調査

- ・旅行代理店（8名）と一般の方（5名）を対象に佐賀城周辺のモニタリングツアーを各1回実施し、佐賀城周辺を案内しながら散策し、お濠めぐり舟に乗船した後に、意見交換を行いました。
- ・佐賀城公園の観光地としての魅力やお濠めぐり舟の乗船について、40名の聞き取り調査を佐賀城公園で行いました。

②佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう！（第三弾）～水のまち、さが城下の魅力再発見～（ミュージアム）

○地域文化資源活用事業

(1) 明和屋敷帳出版事業

- ・佐賀城下における藩士数千人の転出入状況がわかる明和屋敷帳について、平成22年度事業で翻刻したデータ

をもとに出版しました。



明和屋敷帳
明和屋敷帳出版事業（ミュージアム）

(2) 御城下絵図活用事業

- ・平成22年度事業で高精細データ化した城下絵図のうち「元文佐賀城廻之絵図」（1740年）を翻刻図付きで発行しました。



元文佐賀城廻之絵図
御城下絵図活用事業（ミュージアム）

- ・6期の城下絵図の翻刻を行いました。また絵図や文献資料を一元的に整理・管理する「さが城下情報集約システム」を構築しました。
- ・絵図や文献により近世佐賀城の姿を明らかにし、第2回探訪会で活かしました。

(3) 探訪会開催事業

- ・城下を中心とした文化遺産をめぐる探訪会を9月から12月までの毎月1回、計4回実施しました。

参加者総数：339名

第1回 鍋島家ゆかりの寺社めぐり一本庄地区

(88名参加)

第2回 佐賀城内めぐりと天守台跡発掘現場の見学

(101名参加)

第3回 城下の医史跡めぐり (66名参加)

第4回 鍋島家発祥の地と佐賀城築城の源流をたどる

(84名参加)

(4) 展覧会等開催事業

- ・ 徴古館企画展「歴代藩主と佐賀城」（平成23年9月26日～12月3日）
入館者数：1,105名



佐賀城築城400年記念「歴代藩主と佐賀城」
展覧会等開催事業（ミュージアム）

- ・ 講演会「甦る佐賀城」 講師：高瀬哲郎氏（平成23年11月26日）
参加者数：50名



講演会 佐賀城築城400年記念「甦る佐賀城」
展覧会等開催事業（ミュージアム）

参考：徴古館自主事業

企画展の開催（自主事業 4回/年 但し第54回展は本補助事業で実施）

第53回展 「鍋島直茂・勝茂の時代」（平成23年5月30日～7月30日）

入館者数：921名

第54回展 「歴代藩主と佐賀城」（平成23年9月26日～12月3日）

入館者数：1,105名

第55回展 「初春を祝う」（平成24年1月4日～1月31日）

入館者数：502名

第56回展 「鍋島家の雛祭り」（平成24年2月18日～3月31日）

入館者数：16,588名

講演会・ワークショップ等の開催（自主事業）

第53回展にあわせた講演会「佐賀の歴史と城郭」 講師：当館館長 高島忠平

開催日：平成23年7月23日(土) 参加者数：63名

第3回城下探訪会にあわせたワークショップ「城下の医者のすまいを探そう」

開催日：平成23年10月22日(土) 参加者数：20名

第54回展にあわせた佐賀城模型解説会

講師：古賀利幸氏

開催日：平成23年11月18日(金) 参加者数：11名

5 計画の実施の効果

①佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう！（第三弾）～水のまち、さが城下の魅力再発見～（地域）

○地域の文化遺産普及啓発事業

〔水辺再生事業〕〔さが城下塾開催事業〕

この事業を契機に、佐賀市街地5自治会会長や有志の方々が、水量が減った佐賀城跡を中心とした河川や水路に豊かな水の再生を目指す「さが城下みず再生研究会」を発足させ、国・県・市への水の配分見直しを求めて5万人の署名活動を始めたのは大きな事業効果です。

今後も、佐賀城濠のスケールの大きさを体感し、環境・歴史についての理解が進むよう、さらに啓発事業等を行っていく必要があります。このため、平成23年度は413名であったお濠めぐり舟の乗船者数を、平成24年度には、乗船目標500名を目指し周知を図っていきます。



歴史・環境に関するイベント（赤松小学校）
さが城下塾開催事業講座（地域）



お濠めぐり舟の体験乗船（赤松小学校）
さが城下塾開催事業講座（地域）

○その他事業〔観光可能性調査事業〕

観光のプロの目や一般観光客を対象としたアンケート

結果から、佐賀城周辺の名所や旧跡のスポットを厳選し、コースに取り組み内容を絞り込む予定であり、その結果をもとに平成24年度に観光ルートを設定し、また運営体制の確立を目指します。



モニタリングツアー（佐賀城周辺散策）
観光可能性調査（地域）

②佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう！（第三弾）～水のまち、さが城下の魅力再発見～（ミュージアム）

平成21～22年度、文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業に採択以来、徴古館を核に市民団体や大学、行政とも信頼と協力関係が進み事業実施体制も整いました。事業内容としては、城下絵図の読み解き成果を展覧会や探訪会などに反映し、屋敷帳や複製絵図等を出版するもので、地元の歴史の解明に大きく寄与すると考えます。

企画展入館者数は、事業開始前は一日平均12～15名でしたが、平成21年度事業以降は20名を越え、3年続けて会期中1,000名以上の方が来館し賑わいました。年4回開催した城下探訪会は100名を越す回もあり、「初めて訪れた場所がほとんど」、「走りすぎるだけで、止まってお話を聞くのはとても有意義でした」など、地元を見つめ直す機会になったという声がアンケートで多く寄せられ、市民の歴史認識も深まり郷土愛の醸成にも繋がっています。

6 今後の予定

①佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう！（第三弾）～水のまち、さが城下の魅力再発見～（地域）

平成24・25年度事業

○地域の文化遺産普及啓発事業

- ・案内ポイントの選択・検討と現地調査を行い、佐賀城下町及びその周辺の観光ルートを完成させ、まち歩きに活用します。
- ・市民とともに城下の河川や水路の現状調査を行い、問題点を把握します。
- ・お濠活用ワークショップ及び現地調査を行い、城濠周辺の活用について、とりまとめを行います。

- ・歴史・環境についての講座を開催するとともに、お濠めぐり舟での親水体験を実施し、佐賀城や佐賀城下に関する市民啓発を行います。

○その他事業

- ・県史跡「佐賀城跡」及び城濠を活用した観光の可能性について、モニター調査と観光客アンケート調査の結果に基づき、佐賀城跡周辺の観光ルート案を企画するとともに、ガイドボランティアの運営体制の確立を目指します。

②佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう！（第三弾）～水のまち、さが城下の魅力再発見～（ミュージアム）

平成24・25年度事業

○地域文化資源活用事業

- ・高精細データ化した城下絵図の大判複製印刷を頒布します。
- ・佐賀城下に関する絵図・文献資料を解読・整理・翻刻し、平成23年度にシステム構築した「佐賀城下情報集約システム」へデータを入力し、また平成25年度には「歴史資料集」を刊行します。



さが城下情報集約システム
御城下絵図活用事業（ミュージアム）

- ・佐賀城下を中心とした歴史的文化遗产をめぐる探訪会（4回／年）を開催します。



第2回 佐賀城内めぐりと天守台跡発掘現場の見学探訪会開催事業（ミュージアム）

- ・徴古館で開催する企画展や講演会等で当事業の成果を報告します。



崎市の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

①長崎市の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

長崎市において、地元へ根ざした活動を行っている10団体で、長崎市の文化遺産による観光振興・地域活性化実行委員会を組織し、次代を担う子どもたちを中心に、伝統文化を体得・修得させる事業を実施しました。

②軍艦島・高島を活かした観光振興・地域活性化事業

長崎近代化遺産研究会、長崎大学等の団体で、軍艦島・高島を活かした観光振興・地域活性化実行委員会を組織し、人材育成等の事業を実施しました。

③重要文化財（建造物）旧出津救助院授産場及びマカロニ工場公開活用事業

重要文化財である旧出津救助院授産場・マカロニ工場の保存修理事業（国庫補助事業）及び防災設備整備事業（国庫補助事業）完了後の公開活用のための保存活用計画の策定を行いました。

(実施体制)

入札により受注者を決定。

旧出津救助院活用部会を主体として部会を開催し取りまとめを行いました。

学識経験者2名を活用部会に迎え、展示計画の方針等について助言をいただきました。

長崎県・長崎市も活用部会に参加し、文化財の公開活用に伴う保存方法等に対する助言等の協力を行いました。

2 補助事業名

①長崎市の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

②軍艦島・高島を活かした観光振興・地域活性化事業

③重要文化財（建造物）旧出津救助院授産場及びマカロニ工場公開活用事業

3 補助事業者名

①長崎市の文化遺産による観光振興・地域活性化実行委員会

②軍艦島・高島を活かした観光振興・地域活性化事業実行委員会

③お告げのマリア修道会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①長崎市の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

長崎市の長い歴史と伝統の中から生まれ、守り伝えられてきた伝統文化を、将来に渡って確実に継承し、発展

させるとともに、伝統文化による観光振興・地域活性化を図るため、子どもたちを含む地域住民に伝統文化を体験する機会を確保することを目的とします。

(長崎刺繍等体験)

実施団体：長崎市のきもによる観光振興・地域活性化実行委員会

期間：平成23年7月～平成24年1月

対象：市内の子供たち

内容：長崎伝統工芸である貴重な長崎刺繍の歴史を学んだり、作品を身近に見て触れてその素晴らしさを体感しました。また、糸のより方について学習し、長崎刺繍の作品を制作しました。きもの装着を継承する教室や礼法（マナー）の作法を継承する教室も実施しました。

(長崎ぶらぶら節継承)

実施団体：長崎ぶらぶら節保存会

期間：平成23年7月～平成24年3月

対象：市内の子供たち

内容：長崎市内に在住する小学生を対象に、毎週土曜日に日本舞踊（長崎ぶらぶら節）・着物着付け・行儀作法などを継承する教室を実施し、地元戸町ふれあいセンター祭りや戸町フェスタ、小学校の事業において地域の方々に日本舞踊を公開しました。また、2月には1年間の成果を発表する発表会を実施しました。



【長崎刺繍】



【ゆかたの装着の体験】

②軍艦島・高島を活かした観光振興・地域活性化事業

日本の近代化に寄与し、また当時の生活環境がそのままの形で残されている世界的に見ても稀有な存在である軍艦島・高島を活用した観光振興・地域振興計画を実施することを目的とします。

(人材育成)

軍艦島・高島の文化的価値や歴史、当時の生活状況、日本の近代化に果たした役割等を



【軍艦島（端島）全景】

外国人に系統立ててわかりやすく説明する外国語対応ガイドを養成する講座を実施しました。

実施時期・期間：平成23年11月～12月 毎週水曜日 全4回

対象：英語・中国語・韓国語の通訳ができ、全日程受講可能な方。

定員：30名（各言語10名）

（文化遺産継承）

軍艦島・高島に係る写真や映像の収集を行い、データ化及びリスト化を行いました。



【北溪井坑跡(長崎市指定史跡)】

（記録作成・調査研究）

当時在住者調査・面談記録を作成し、また現在の島内撮影や当時在住者インタビュー、写真等の賃借、集約、整理を行いました。

実施時期：平成23年8月～平成24年3月

調査対象：軍艦島・高島に当時在住者（軍艦島15名、高島16名）

調査方法：対面式ヒアリング

聞き取り内容：性別、生年月日、年齢、島での滞在年数、石炭産業との関わり、当時の家族構成等

その他：軍艦島・高島に関する映像や写真を所有している場合は借受けを依頼。

③重要文化財（建造物）旧出津救助院授産場及びマカロニ工場公開活用事業

重要文化財である旧出津救助院（授産場・マカロニ工場）の保存修理事業（国庫補助事業）及び防災設備整備事業（国庫補助事業）完了後の公開活用のための保存活用計画の策定を行いました。

保存活用計画策定の基本方針は、文化財の「保存と継承」を念頭に置き、救助院において、ド・ロ神父指導のもと、人々が行っていた作業を再現し、来館者が体験することによって、地域住民はもとより、一般の来館者にも救助院が担ってきた役割、価値をわかりやすく理解できる施設として公開活用が行えるよう検討・策定を行いました。



【重要文化財旧出津救助院】

5 計画の実施の効果

長崎市の文化遺産による観光振興・地域活性化事業においては、生活文化（和装礼法、茶道、華道）、伝統芸能（日本舞踊、剣舞抜刀）、民俗芸能（ぶらぶら節）、国民娯楽（囲碁）の各種教室を合計246回実施し、延べ2615人の参加がありました。教室の実施をとおして、子どもたちに様々な伝統文化の真の素晴らしさを体験してもらうとともに、その伝統文化を保存し継承していく必要性を子どもたちに実感させることができました。また、現代社会において、希薄になっている子ども同士のコミュニケーションの確立や礼儀作法の取得などに繋がったものと思われるとともに、各地域の祭り等で発表会を実施することにより、地域住民との親睦を図られるなど地域の活性化にも貢献することができました。

軍艦島・高島を活かした観光振興・地域活性化事業においては、外国語対応ガイドを養成する講座を4回実施し、30名が参加しました。また、軍艦島・高島に係る様々な資料の収集、整理、保存を行いました。これらの文化遺産への市民の保存活用への理解と世界遺産登録への機運を高めることができました。

重要文化財（建造物）旧出津救助院授産場及びマカロニ工場公開活用事業においては、保存活用計画を策定することにより、文化財建造物単体での保存活用のみならず、敷地単位での保存箇所、防災上の留意箇所等、幅広い視線で文化財を考えることができ、防災に対する消防関係部局及び近隣住民との事前協議による懸案事項の抽出を行うことができました。保存活用計画の策定により、今後の保護・保全措置が所有者だけではなく、これから運営に携わる多くの人々に対しての指針として整備することができました。

これらの事業を実施することにより、地域の文化遺産に関する理解を深めることができたとともに、保存や継承を充実させることができました。また、これらの文化遺産を活用することで、長崎市の観光振興にも繋げることができました。

6 今後の予定

①長崎市の文化遺産による観光振興・地域活性化事業

②軍艦島・高島を活かした観光振興・地域活性化事業

平成24年度・25年度においても引き続き実行委員会を構成する団体により、地域の文化遺産の継承事業を実施する予定です。

③重要文化財（建造物）旧出津救助院授産場及びマカロニ工場公開活用事業

策定した保存活用計画を基礎とし、実際の保存活用整備を実施する予定です。保存活用計画を策定したことによって、文化財建造物の近隣施設との関係を明らかにすることができました。今後は近隣施設との連携を進める予定です。



1 計画の概要・実施体制

熊本市は、平成21年4月に策定した「熊本市第6次総合計画」において、重要施策として「歴史的文化遺産の継承と活用」を掲げています。また、平成22年2月に今後4年間の取組とスケジュールを示した「挑戦元年アクションプラン（工程表）」においても、「観光で選ばれる都市」となることを掲げています。

熊本大学は、平成18年2月に策定した「熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想 第1期五カ年計画」及び「同第2期計画」により、熊本大学内に有する歴史的建造物群や文化的資産の活用を進めるため「市民資産としての整備」「観光資源としての整備」を掲げています。以上を踏まえ、熊本市と熊本大学が共同で事業を実施しています。

2 補助事業名

- ①くまもとの文化遺産を活かした観光振興と地域活性化事業（地域）
- ②くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム）
- ③重要文化財旧第五高等学校本館等公開活用事業

3 補助事業者名

- ①くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化実行委員会
- ②くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化実行委員会
- ③熊本大学

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①くまもとの文化遺産を活かした観光振興と地域活性化事業（地域）

- 小泉八雲来熊120年記念事業（平成23年度）
講演会・シンポジウムの開催及び清和文楽人形芝居（熊本県無形文化財）「雪女」公演等を実施
- フィルムロケーションデータベース制作事業（平成23～24年度）

映画撮影等で活用が考えられる熊本大学の歴史的建造物群や景観資産、周辺地域の文化遺産のデータベース化

②くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム）

- 留学生有償ボランティアガイド育成事業（平成23～25年度）
熊本大学の地域文化資源を案内できる留学生ボランティアガイドの育成
- 熊本大学及び周辺地域における観光コンテンツ開発事業（平成23～25年度）
熊本大学や周辺地域が有する文化観光資源の新たな視点に立った活用提言
- 熊本県博物館ネットワーク構築事業（平成23～25年度）
学芸員同士の相互協力によって構築する県内博物館のネットワーク化
- 観光の国際化に対応した展示等の多言語化事業（平成23～25年度）
熊本大学五高記念館内の案内や展示解説の多言語化整備



「小泉八雲来熊120年記念事業」における基調講演

○時代に即応した情報発信システム、ガイドシステムの構築事業（平成23～25年度）

熊本大学五高記念館における新規利用者開拓のための情報発信システムや来館者に質の高い展示解説を提供するためのガイドシステムの構築

③重要文化財旧第五高等学校本館等公開活用事業

熊本大学が有する重要文化財、旧第五高等学校本館、化学実験場、赤門、熊本大学工学部旧機械実験工場の保存活用計画策定（平成23～24年度）

平成23年度は、過去の修理・修繕等や調査等の記録を整理し、明らかにした。平成24年度は、保存計画・修理計画・防災計画・活用計画を策定する予定です。



「重要文化財旧第五高等学校本館等公開活用事業」の対象となった建物の一つ「旧第五高等学校化学実験場」

5 計画の実施の効果

①くまもとの文化遺産を活かした観光振興と地域活性化事業（地域）

○小泉八雲来熊120年記念事業（平成23年度）

平成23年11月26日に実施した講演会・シンポジウム

及び清和文楽「雪女」の公演等には県外を含め300名近くの方々にご参加いただき、改めて熊本とラフカディオ・ハーンの深い結びつきをアピールすることができました。また、ハーンを軸に県内外の関係団体が相互に情報交換を行い、今後の相互協力を確認し連携強化につながりました。



「小泉八雲来熊120年記念事業」におけるシンポジウム風景



「小泉八雲来熊120年記念事業」における清和文楽人形芝居(熊本県無形文化財)「雪女」公演

○フィルムロケーションデータベース制作事業（平成23～24年度）

学内を頻繁に行き来する学生たちに撮影場所の選定を任せ、写真撮影は、プロのカメラマンに依頼し撮影しました。

継続事業のため、現段階ではフィルムロケーションデータベースとして公開していません。したがって、具体的な効果は現れていないが、ロケーションハンティングに参加した学生や撮影を担当したカメラマン、仕上がった写真を見た学内関係者等から予想以上の好反応があり、今後の展開に期待が持てる状況です。

②くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム）

○留学生有償ボランティアガイド育成事業（平成23～25年度）

外国人来館者に的確な案内を行うため、多言語化事業と並行して留学生案内ボランティアの育成を行う予定ですが、平成23年度は、案内用のマニュアルの作成と翻訳を行いました。実際の育成はまだ行っていませんが、完成したマニュアルは学内の外国人教職員や留学生に好評価を受けており、ボランティアの育成に参加したい旨の申し出も来ています。

○熊本大学及び周辺地域における観光コンテンツ開発事業（平成23～24年度）

五高記念館は、夏目漱石や小泉八雲が教鞭をとった場所として知られていますが、五高の歴史を紐解けば各界で活躍する多くの人材を育ててきました。また、周辺地域は様々な史跡に恵まれています。熊本大学及び周辺地域への観光客の入り込みを増加させるため、地域の観光資源を再発見し、それらを繋ぐ新たなストーリーを提案しようとしています。平成23年度は、

地域の観光資源の掘り起こしを行い、取りまとめた資料を作成しました。

○熊本県博物館ネットワーク構築事業（平成23～25年度）

熊本県下の博物館をネットワーク化するに当たり、各館の学芸員同士の連携を深め、また、収蔵品のデータベースを統合することによって利用や研究の便宜を図っていこうという試みですが、県下の主要博物館である熊本県松橋収蔵庫・熊本市博物館・天草市本渡歴史民俗資料館と熊本大学五高記念館との間で協議を進めています。

また、データベースの充実を図るため資料のデジタル化を進めています。

○観光の国際化に対応した展示等の多言語化事業（平成23～24年度）

五高記念館は熊本大学内にあるため、元々外国からの来賓は多いが、近年は近隣諸国からのツアー客なども増加しています。その為、案内板や展示解説の多言語化が求められており、その対策として展示解説の多言語化翻訳(英語・中国語・韓国語)を行いました。

○時代に即応した情報発信システム、ガイドシステムの構築事業（平成23～25年度）

五高記念館は、竣工から120年を越える重要文化財の建物ですから、他の博物館のように最新式のシステムの導入は容易ではありません。これまでは、解説言語も一部に英語の解説を付しただけで多言語化にも対応できていませんでした。

今回は、新規利用者層創出事業により館内のローカルネットワークを利用した案内システムを導入し、多言語化にも同時に対応しようと考え運用管理が比較的簡単にできるタッチパネル式の展示解説システムを委託開発中です。

また、情報発信システムについても、社会全体では日進月歩の状態ですが、コストや利用の広がり を考慮し、より幅広い層へアプローチ可能なシステムを導入するため検討を進めています。

案内システムや情報発信システムで利用できる動画の制作も進めています。

6 今後の予定

①くまもとの文化遺産を活かした観光振興と地域活性化事業（地域）

○フィルムロケーションデータベース制作事業（平成23～24年度）

フィルムロケーションデータベース専用のホームページを作成します。

政令市となった熊本市は、フィルムコミッション事業を活性化させるべく平成24年7月に「くまもとシティ・フィルムオフィス」を設置しました。今後は熊本市と連携し、文化庁の「フィルムロケーションデータベース」への登録を目指します。

②くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム）

○留学生有償ボランティアガイド育成事業（平成23～25年度）

平成24年度は、ボランティア育成に取りかかる予定ですが、事前にモニターの募集を行い、マニュアルの充実を図ります。

○熊本大学及び周辺地域における観光コンテンツ開発事業（平成23～24年度）

平成24年度は、委員会形式又は研究者・関係者への個別ヒアリングによるストーリーの構築と具体的な観光コンテンツの提言を目指しています。

○熊本県博物館ネットワーク構築事業（平成23～25年度）

平成24年度は、引き続き県下の主要博物館同士の協議と資料のデジタル化を進めていきます。

○観光の国際化に対応した展示等の多言語化事業（平成23～24年度）

平成23年度に多言語化翻訳を完成し、平成24年度は実際に展示に反映させることとなりますが、日本語も含めて4言語を併記するには展示スペースに無理が生じます。そこで、次項の「時代に即応した情報発信システム、ガイドシステムの構築事業」と連携させ、ガイドシステムの中に組み込むことで展示解説の多言語化を実現していこうと考えています。

○時代に即応した情報発信システム、ガイドシステムの構築事業（平成23～25年度）

平成24年度は、実際のタッチパネル式モニターを導入し、案内システムの運用試験を行います。また、情報発信システムの構築のためSNSの導入等を検討します。動画についても、引き続き制作を進めます。



フィルムロケーションデータベースの為にプロのカメラマンに依頼して撮影した写真の 枚 五高記念館内の復原教室



歴史ロマン体感！～千年の歴史にふれる旅～

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

大分県の「たから」である多様で豊かな文化遺産を活用した観光振興や地域活性化を目的として、①文化財等の整備、②歴史博物館の利用促進、③観光振興、④地域振興の4つを柱として事業を行います。本事業では、「歴史ロマン体感！～千年の歴史にふれる旅～」で①・③・④を、「れきはくと見つけるUSAの宝物」で②を行い、相互が連携しながら効果的に事業を進めていきます。

実施体制として、大分県文化遺産活用推進実行委員会を組織し、事業を実施しています。実行委員会は、大分県教育委員会（文化課、県立歴史博物館）、大分県（観光地域振興局観光地域振興課、北部振興局）に、宇佐市（観光まちづくり課）、宇佐市教育委員会（社会教育課、学校教育課）といった地元市町村に加えて、(社)ツーリズムおおいた、宇佐市観光協会、大分県北部地域観光圏協議会といった観光協会、事業に関わる宗教法人宇佐神宮の代表者で組織されています。各事業は、事業の実施主体となる調整団体のもとで、関連する団体を関係団体として位置づけ、事業が円滑に推進できるような体制としています。

2 補助事業名

- ①歴史ロマン体感！～千年の歴史にふれる旅～
- ②れきはくと見つけるUSAの宝物
- ③宇佐神宮境内公開活用事業

3 補助事業者名

- ①大分県文化遺産活用推進実行委員会
- ②大分県文化遺産活用推進実行委員会
- ③宇佐神宮

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①歴史ロマン体感！～千年の歴史にふれる旅～

大分県には、宇佐神宮をはじめとして著名な文化財が数多く存在し、地域の宝として県民に親しまれています。全国的にも大分県は、国東半島の六郷満山文化等の歴史ロマンを感じる観光地として知られています。しかし、ガイド育成等での市町村の枠を超えた取組は十分ではありませんでした。

そこで、よりレベルの高いガイドの養成や文化財の修復現場公開等による新たな文化財の魅力発信を目的として、おせったいガイド育成事業及び文化財修復現場公開を活用した文化遺産普及啓発事業を実施しました。

おせったいガイド育成事業は、市町村の文化財等のガイドや担当者の連携意識向上及びガイドの育成を目的として、平成24年3月8日に「大分県歴史シンポジウム」

を開催しました。また、市町村の枠を超えたガイド育成に加えて、大分県を訪れる個人観光客は、交通網の関係からタクシーの利用者が多いことから、観光ガイド・観光タクシー養成のために、県北地域の歴史を中心とする観光モデルコースを掲載した大分県北部地域観光ガイドマニュアル「豊の国千年ロマン時空の旅」を2,000部作成し、今後、各種研修等での活用を予定しています。



歴史ロマンシンポジウム：大分県歴史シンポジウム

文化財修復現場公開を活用した文化遺産普及啓発事業は、大分県教育庁文化課が実施する「文化財の戦略的保存・活用事業」における文化財修復現場公開と連携し、観光振興等の観点から公開を行いました。

大分県への観光客は、福岡県からの来訪者が最も多いため、「高速バスとタイアップ」の一環として、福岡発の高速バス（とよのくに号）利用者への文化遺産施設及びレンタカー料金の割引を行いました（平成23年11月11日～平成23年12月25日）。また、文化財修復現場公開箇所を含む「豊の国千年ロマン時空の旅バスツアー」の造成及びパンフレット等を作成し、「旅行ツアー商品とタイアップ」（平成23年11月21日～平成23年12月18日）を実施しました。

大分県への関東圏・関西圏からの観光客は福岡圏と比較して低調であるため、大分県の文化遺産周知及び誘客



歴史ロマンモニターツアー：宇佐神宮を説明する宇佐市観光協会のガイド

強化のために、文化遺産をめぐるモデルコースを作成し、モニターツアー1回及びアンケート3回（うち1回はモニターツアー者）を実施し、今後大分県の文化遺産を活かした観光振興を行ううえで必要なデータを収集しました。

②れきはくと見つけるUSAの宝物

大分県立歴史博物館（以下歴史博物館）は、宇佐市国指定史跡川部・高森古墳群に隣接して設置されており、県内の歴史・民俗等の研究やその成果の普及啓発活動を行っている機関です。普及啓発活動においては、生涯学習及びシルバー世代の活動の場として注目されるだけでなく、学校や教育機関との連携も求められています。さらに、近年では、これまで知られていなかった地域の文化財を掘り起こして、地域振興や観光振興に寄与する活動も期待されています。そこで、歴史博物館ではUSAふるさとガイド育成事業、学校との連携事業、大分県立歴史博物館の展示環境整備事業の3事業を実施しました。

USAふるさとガイド育成事業は、USAふるさとガイド29名に対して、館内研修5回と実地研修1回を行い、ガイドの知識及び話術の向上を図りました。

学校との連携事業は、小学生が実際に地域に出かけて文化財や歴史を学ぶ機会を提供することを目的として、宇佐市内の小学校5校（8クラス138名）について実施しました。内容は、学校での事前学習及び宇佐神宮修復現場公開と歴史博物館の見学です。講師はUSAふるさとガイドが行い、ガイドは前述の研修成果を発揮することができました。



れきはくUSAふるさとガイド：
USAふるさとガイド養成事業での実地研修

大分県立歴史博物館の展示環境整備事業では、①展示キャプションのリニューアル、②外国語版リーフレット及び解説シートの作成、③トピック展示を行いました。展示キャプションのリニューアルは、キャプションそのものや文字が小さく読みづらいもの860枚を大きく見やすいものにしました。また、熊野磨崖仏のグラフィックパネル1枚を周囲の展示物に合うように作り変えるとともに、歴史博物館の沿革を説明する解説パネル1枚を作成し、エントランスホールに設置しました。外国語版リーフレット及び解説シートに関しては、今後増加が予想さ

れる外国人見学者向けに英語版・韓国語版・中国語版の3ヶ国語で各2,000部を作成しました。トピック展示は、地域の文化財を掘り起こすことを目的として、常設展内のトピックコーナーで地域文化財展「瑠璃の浄土－薬師如来へのいのり－」と題し、これまで大分県内でも取り上げられることの少なかった薬師如来に焦点をあてた展示を行いました。



れきはくキャプション：
環境整備事業実施の展示キャプション

③宇佐神宮境内公開活用事業

宇佐神宮は全国に広がる八幡社の総本宮であるとともに、全国各地から毎年約150万人の参拝者・観光客が来訪する大分県内でトップクラスの観光地でもあります。宇佐神宮では、平成9年以降境内の各所で建物等の修復を行っており、平成22年度からは大分県教育庁文化課が実施する「文化財の戦略的保存・活用事業」における文



宇佐神宮境内公開活用事業：
宇佐神宮修復現場の状況

化財修復現場公開と連携し、観光振興等の観点から公開を行っています。平成23年度には、国宝重要文化財等保存整備費補助事業による史跡宇佐神宮境内の上宮春日神社・住吉神社の檜皮葺屋根葺替工事の修復現場公開を平成23年11月1日～平成23年11月20日に実施し、①歴史ロマン体感！～千年の歴史にふれる旅～による観光ツアーとのタイアップ、②れきはくと見つけるUSAの宝物による小学生467名の訪問等がありました。また、公開用の檜皮葺屋根の説明資料を作成し、見学者に配布しました。

5 計画の実施の効果

①歴史ロマン体感！～千年の歴史にふれる旅～

○おせったいガイド育成事業

これまでの観光ボランティアガイドは、各市町村及び観光協会が育成を図ってきましたが、地域の歴史文化や観光資源について詳しいが単なる「物の解説者」に留まることが多く、また市町村の枠組みを超えた文化圏全体の知識については乏しい傾向にありました。そこで、モデルケースとして大分県北地域の歴史文化や文化遺産をストーリーでつないだ観光ガイドマニュアル「豊の国千年ロマン時空の旅」を2,000部作成することで、ガイドが「物の解説者」に留まらず、豊かな歴史文化の物語を伝える「語り部」となるための足がかりができました。平成24年度以降は、このマニュアル本を使用し、ガイドの育成・充実を図っていきます。

また、県北地域8市町村合同でのシンポジウム開催(72名参加)は、県内外へ魅力発信するために、今後より一層各市町村及び団体の連携が必要であることを認識する契機となりました。

○文化財修復現場公開を活用した文化遺産普及啓発事業

高速バスとのタイアップでは、レンタカー料金の割引を行うことで2次交通の不便な箇所への観光客の誘致を図ることができました。旅行ツアーとのタイアップで

は、特別バスツアーを造成し、大分県北地域の文化財をつなぐストーリーが観光資源として有用であることが改めて認識されました。しかし、計画の核となる国指定史跡宇佐神宮修復現場公開は、保存整備事業の着手が大幅に遅れたことによりツアー工程に組み入れることができなかったため、次年度以降は適切に組み込みその効果を検証したいと考えています。

モニターツアー及びアンケートでは、大分県での興味のある文化財等の15の設問に対し、基礎データを収集することができました。特にモニターツアーでは、特定の2～3箇所をじっくり観光したいとする人と限られた時間でより多くの文化財を回りたいとする人が半数ずつであり、いずれもレンタカー等での自由な行動を希望する人が多数を占めていました。今後の商品造成では、それらの好みに合わせた旅程等の検討を行う必要があると考えています。

②れきはくと見つけるUSAの宝物

USAふるさとガイド養成事業では、29名のガイドに対して、館内研修5回及び実地研修1回を行いました。ガイド自身が解説実習をする機会をとることで、内容のみならず話術等のスキルアップを図ることができました。このような研修を積み重ねる中で、ガイドそれぞれの特徴がでるようになり、来館者からも好評を得ています。

学校との連携事業では、宇佐市内の小学校5校で5・6年生8クラス138名を対象に宇佐神宮修復現場公開及び歴史博物館地域文化財展の事前学習と実地学習を行いました。小学生からは、宇佐神宮の檜皮葺屋根は普段見ることのできないことなので、帰ったら家族に話したいという感想がありました。このように子どもたちに、文化財の修理現場等を見学してもらうことで、地域の文化財や宇佐神宮の歴史について興味関心を抱き、郷土への愛着を高めるきっかけとなることが認識されました。

大分県立歴史博物館の展示環境整備事業では、展示



れきはく学校との連携：
宇佐市立和間小学校5年16名、6年28名の宇佐神宮文化財修復現場公開

キャプションのリニューアルを行った結果、年間数十件程度あった読みづらさの苦情がなくなり、好評を得ています。外国語版リーフレット・解説シートは現在約100部が使用され、外国人観覧者のみでの観覧が可能になっています。特に、展示コーナーの解説シートは主要展示資料の説明で、具体的でわかりやすいとの感想が得られています。トピック展示の地域文化財展「瑠璃の浄土-薬師如来へのいのり-」は約1ヶ月の開催期間で1718名の観覧があり、平成22年度収蔵品展「館蔵優品展」(平成23年3月15日～5月8日)の入館者数1,126人と比較すると約1.5倍の入館者があり、今後もこのような地域の文化財掘り起こし、展示等を行っていききたいと考えています。

③宇佐神宮境内公開活用事業

史跡宇佐神宮境内の文化財修復現場公開には総数467名の参加者がありました。参加者からは、普段見ることのできない文化財の姿や職人の技術に驚嘆の声が上がり、職人へ積極的に質問をする人も多く認められました。

これまで非公開が中心であった文化財修復の現場を公開することで、宇佐神宮をはじめ当事業に参加した団体にとっても文化財の新たな魅力を認識することにつながり、観光振興や地域振興の視点での文化財活用の気運醸成を図ることができました。

公開用資料により、説明者が変わっても同一の内容で解説することができただけでなく、参加者からも具体的にわかりやすいと好評を得ています。

6 今後の予定

○平成24年度

①歴史ロマン体感！～千年の歴史にふれる旅～

平成24年度の事業を継続・発展する形で、①地域の文化遺産に関する情報発信、人材育成事業、②地域の文化遺産に関する普及啓発事業、③地域の文化遺産に関する継承の3つの柱をたてて、事業を展開します。

①地域の文化遺産に関する情報発信、人材育成事業では、宇佐地域の文化財を楽しく巡ることを目的とした「スタンプで巡る宇佐の歴史文化景勝地周遊ガイドブック」の作成、平成23年度作成観光ガイドマニュアル「豊の国千年ロマン時空の旅」を使用したガイドタクシー研修・認定ツアーコースの造成、関西圏からの観光ツアー造成及び事前講座・アンケートの実施を予定しています。②地域の文化遺産に関する普及啓発事業では、宇佐・国東の神仏習合や六郷満山文化の魅力周知を目的とした講演会の開催と「宇佐神宮行幸会」をテーマとしたシンポジウム開催やその航路を調査する中で愛媛県八幡浜市との交流及び観光キャンペーンを予定しています。③地域の文化遺産に関する継承では、宇佐神宮の歴史とともに発展した地域の食文化の継承を目的として、宇佐飴の伝統的製造技術の保存・伝承活動を行います。

②れきはくと見つけるUSAの宝物

地域文化資源活用事業と地域連携強化事業を予定しており、歴史ロマン体感！～千年の歴史にふれる旅～のシンポジウム等と連携を図りながら事業を進めていきます。

地域文化資源活用事業では、地域の住民との協業を促進するためにガイドボランティアの育成のための館内外での研修及び講演会と市民ボランティアの研修を行います。地域連携強化事業では、大分県教育庁文化課が実施する「文化財の戦略的保存・活用事業」の宇佐神宮本殿修復現場公開と連携をした地域文化財展「宮大工の世界」を開催します。また、平成23年度から継続して、修復現場及び地域の文化財展の事前学習と現地見学を宇佐市内の小学5・6年生6クラスを対象として実施し、ガイドには本事業で育成しているUSAふるさとガイドがあたります。

③宇佐神宮境内公開活用事業

史跡上宮東中門・透塀及び国宝本殿の檜皮葺屋根の修復現場を①・②と連携しながら、観光客・地域住民・小学生等に公開します。

○平成25年度

①歴史ロマン体感！～千年の歴史にふれる旅～

平成23・24年度に引き続き、おせたいガイド育成事業として、ボランティアガイドの育成及び連携を図るための研修会やガイド認定試験、シンポジウムの開催を予定しています。文化財の修復現場公開を活用した文化遺産普及啓発事業では、宇佐神宮の修復現場公開や歴史博物館の事業との連携を行いながら、高速バス・旅行ツアー商品・メディアとのタイアップを図り、モデルコースの造成及び商品化を検討します。

②れきはくと見つけるUSAの宝物

平成23・24年度から継続して、USAふるさとガイド養成事業、学校との連携事業、地域文化財のトピック展示事業を行います。USAふるさとガイド養成事業では、旧院内町・旧安心院町の文化財を研修し、地域的な発展性を持たせながら事業を進めていきます。

③宇佐神宮境内公開活用事業

史跡上宮土間回廊の修復現場を①・②と連携しながら、観光客・地域住民・小学生等に公開します。



延岡市の地域文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

1 計画の概要・実施体制

延岡市では、21世紀のまちおこしをめざして、下記一覧表のようなそれぞれ個性もジャンルも違う21の保存会

◎オール延岡人！！市民みんなでスクラム組んで！！ いっしょにやっちみろや！！

文化遺産を活かした観光振興・地域活性化実行委員会

NO	構成団体名および文化ジャンル・フィールド
1	のべおか天下一市民交流機構（能楽を活かしたまちおこし）
2	能面ガイドの会（市民ボランティアによる「延岡藩主内藤家旧蔵の能面」のガイド）
3	城山ガイド・ボランティアの会（地域の歴史・文化の紹介・ガイド）
4	kongeena（こんげな）のべおか（古地図を使った新たな視点からの町歩きの見直し）
5	縣（あがた）神楽保存会（地域に根づく神楽伝承活動を通したまちおこし）
6	早日渡（はやひと）神楽保存会（地域神楽の保存・伝承活動）
7	出北（いできた）旧ばんば音頭を伝承する会（郷土芸能・地域文化を通したまちおこし）
8	權伝馬（かいでんま）踊り保存会（郷土芸能の保存・伝承活動）
9	杉の子伝統文化子供教室（伝統文化継承活動を通した次代を担うこどもたちの健全育成）
10	藤江監物（ふじえ けんもつ）祀り音頭を守る会（郷土先覚者の顕彰活動を通したまちおこし）
11	ふるさと延岡太鼓塾（和太鼓伝承活動）
12	海の文化「離島 島野浦西国三十三ヶ所観音様巡り」保存会（離島の文化の掘りおこし）
13	北川町家田（えだ）虫追い保存会（地域伝統行事の保存・伝承活動）
14	郷土伝統玩具を守りつなごう！ のべおかチーム のぼり猿（郷土玩具の保存・伝承活動を通したまちおこし）
15	日本の建築文化・鶯（とび）の匠の技を伝える会（鶯職人の会）
16	つくしんぼ「花の会」（華道）
17	歩々庵（ほぼあん）茶の湯を楽しむ会（茶道裏千家）
18	表千家 径友会（けいゆうかい）（茶道表千家）
19	響21・NOBEOKA（箏）
20	「えいっ！」なぎなた武道で観光に喝！（武道薙刀の鍛錬を通したまちおこし）
21	なぎなた持って「延岡の観光、どんげかせんといかん！」（武道薙刀の鍛錬を通したまちおこし）

や団体が、堅い結束のいわば「連合艦隊」を組んで、平成23年度から新たにスタートした「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」に取り組んでいます。

2 補助事業名

- ・地域の文化遺産伝承活動に根ざした、市民みんなで支え合う観光振興・地域活性化事業

3 補助事業者名

- ・オール延岡人！！市民みんなでスクラム組んで！！ いっしょにやっちみろや！！文化遺産を活かした観光振興・地域活性化実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①後継者育成・体験教室実施事業（まず、自分自身が地域文化に「共感」を！）

確実な知識・技術と体験を持たない裏づけのない「市民力」「地域力」は薄っぺらな“カラ元気”に終わり、説得力も継続性もありません。観光振興・地域活性化を「旗印」に掲げる活動主体のメンバー自身が、まず地域文化をじっくり味わい、心から楽しみ、「地域文化！これは、ほんとにいいね！」と感じなければ、「共感」「文化力」を、外に向かって力強く発信するエネルギー源とはなり得ません。

そして、「共感」を共有でき、手を携える「同志」「次世代」を、より多く育てることが、たとえ手間と時間が

かかったとしても、住民自身による観光振興・地域活性化に取り組んでいくのに何よりも大切で、これが観光振興・地域活性化の本質・根幹・エキスだと感じています。

延岡市では、文化庁の（前）助成事業「伝統文化こども教室」で8年間培ってきた、次世代継承への力強い「うねり」と「地域文化力」、その理念を、23年度からスタートした、この「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」のなかでも、なんとか活かそうと努めています。

「能楽入門講演会」「能面ガイド養成講演会」「城山ガイド養成講演会」「こども神楽伝承教室」「郷土芸能伝承教室」、地域の小学校の放課後学習で取り組む「港町郷土芸能権伝馬踊り教室」、明治新国家建設のターニングポイントとなった最後の内戦 西南の役にまつわる郷土芸能「和田越え決戦の段」のこどもたちへの伝承教室、「江戸時代のお百姓さんの恩人 藤江監物（ふじえ けんもつ）様顕彰講演会」「離島 島野浦の歴史と文化講演会」「農耕文化 虫追い体験教室」、「郷土玩具『のぼり猿』作り教室」「鶯職人の伝統の匠を伝える講演会」、地域の良さを知るための「地域の川沿いに咲く野の花スケッチ教室」「茶道教室」「箏教室」「武道 なぎなた教室」など、目を凝らせば、見えてくる身のまわりのほんの小さなことに「気づく訓練」を地道に実施し、多彩な地域文化に光を当てる努力を続けています。



北川町家田（えだ）虫追い

たいまつを掲げたこどもたちが、「♪～ともや～ ♪～ともや～ ♪おんともや～」と田んぼ道を歩いて回ります。

戦前は、全国各地で見られた懐かしいお盆の農行事でした。

このなかの特にめざましいものとしては、「能楽入門講演会」で、京都の能観世流シテ方十世片山九郎右衛門氏から直伝の稽古を受けたこどもたちが、平成24年4月1日に博多座での晴れの公演を見事に果たしています。

しかし、目立つことだけに目を奪われてはいけないと思います。観光振興の功を焦るあまり、根付いていない地域文化の広報PR活動だけ先行しては、せっかく芽生えた観光振興・地域活性化活動も「砂上の楼閣」に終わりがねないと感じています。

時間がかかっても、やはり、地道な基礎固めが大切です。

②地域の文化遺産傳承者が連携し、参画し、支えていく観光振興事業の開催

（自分自身が感じた「共感！」を、伝えていこう！）

延岡市郷土芸能保存会の会長を実行委員長に、活動分野の違う21の団体が「連合艦隊」を組みましたが、正直申し上げて、わたしたち、助成金の採択をいただいて以来、ずうっと悩み続けました。この事例集を書いている今でも悩んでいます。きっと全国各地のみなさん方も、同じように悩んでおられることと思います。

発表する場をいただきましたこの事例集で、わたしたちの活動の悩みをお伝えすることで、これならできると、全国各地の同志のみなさんからの共感をいただき、元気をだしていただける活動の一里塚になれば幸いです。

まず、この一年間に、実行委員会の一員が参画・参加した地域行事、企画・実施した行事などの主なものを書

き上げたいと思います。

- ・第35回「まつりのべおか」
（平成23年7月30日・31日）
- ・明治10年 西南の役 和田越え決戦慰霊祭
（平成23年8月15日）
- ・第24回「延岡市郷土芸能大会」
（平成23年8月21日）
- ・「のべおか天下一薪能15周年記念展」
（平成23年9月17日～10月10日）
- ・鳶の匠の技、秋の風物詩大瀬川「鮎やな」設営参画
（平成23年9月20日～9月30日）
- ・第15回「市民能舞台（薪能前夜祭）」
（平成23年10月1日）
- ・第15回「のべおか天下一薪能」（平成23年10月8日）



第15回「のべおか天下 薪能」（平成23年10月8日：延岡城址二の丸広場）
貴重な文化遺産「延岡藩主内藤家旧蔵の能面」を活用し、秋の風物詩になっています。

厳しい稽古に耐えて、京都の本物の能楽師にまじって、地元の小学生も晴れ舞台を踏みました。（演目「松山天狗」）

- ・第4回「のべおか少年少女文化の祭典」
（平成23年10月21日～23日）
- ・宮崎県北観光物産展「のほりざるフェスタ2011」
（平成23年10月29日・30日）
- ・離島 海の文化 感動体験「島野浦えんぱく」
（平成23年11月23日）



日向灘に浮かぶ離島 島野浦での「小さな手作りの旅 感動体験えんぱく」
（平成23年11月23日）

海の香をいっぱい吸い込みながら「十ヶ所観音様巡り」など「海の文化」を和気あいあい、終日楽しみました。

感動体験の旅 えんぱく参画：郷土芸能「權伝馬踊り」(平成23年10月30日)

・第8回「カルチャーゾーンフェスタ」

(平成23年11月3日)



第8回カルチャーゾーンフェスタ
(平成23年11月3日：延岡市社会教育センター)

郷土の先覚者や、郷土芸能を学習した出北(いできた)地区の住民・子どもたちが地域の活性化に向けて、歩歩活動をはじめ、第8回「出北新嘗祭」を開催するなど地域間交流・世代間交流の「輪」も芽生えてきました。

- ・講演会「昭和前期の延岡」(平成23年11月5日)
- ・ワークショップ「古い写真を見ながら昔の話を聞こう!」
(平成23年11月6日)
- ・第一回「出北新嘗祭」(平成23年11月6日)
- ・離島「嶋野浦神社秋季大祭」
(平成23年11月12日・13日)
- ・第15回「城山かぐらまつり」(平成23年11月20日)
- ・離島 島野浦 海の文化 歴史・文化講演会
(平成23年11月22日)
- ・離島 島野浦 漁師文化 感動体験「えんぱく」
(平成23年11月23日)
- ・講演会「地図から何がわかるでしょうか?」
(平成24年1月21日)
- ・ワークショップ「地図から何がわかるでしょうか?」
(平成24年1月22日)

こんなにいっぱい参加してきて、成功した事例というよりも、悩んだこと、反省の弁とコツを、ごく手短かに列挙しますと、

- ◇分野の異なる、バクトルの違った、いわば「連合艦隊」方式!もなかなかいいよ!
- ◇延岡市は、(旧)北方町、(旧)北浦町、(旧)北川町と、平成17年度、18年度に合併し、九州では、2番目に広い市となりました。掘り起こせば、まだまだ「埋まっている地域文化」があると感じています。こんなたくさんの地域文化の交流・情報の交流・「共感の発信」には、広域的に取り組める「連合艦隊」方式がいいよ!
- ◇苦手なことにも取り組もう! 苦手な観光振興にも取り組み、視点を変えるきっかけにしよう!
- ◇「身近な、ごく小さなこと」を大切に!
- ◇大風呂敷を広げないで、小さな一歩一歩を大切に!

身の周りのできることから取り組もう!

- ◇苦手なことに取り組んだお蔭で、悩んで智恵を絞ったお蔭で「観光振興・地域の活性化」という「大きな大きな岩」が、ほんのちょっとだけだけ動いた気がします!
- ◇智恵をだすことは大切だけど、地域文化の「掘り起こし」「育成」に取り組むのに打算に走ってはダメ!
- ◇発想を変えて、「ちょっと視点を変えたまち歩き」もいいよ! 今まで見えなかったものが見えてくる! そこにも「地域文化」が息づいていた!
- ◇行政では手が届かないところに、住民の智恵・行動力で届くこともある!
- ◇漁師さんが、自分の生れ育った島おこしに「やる気」「本気」になった。
- ◇「情熱は人を動かす」当初の計画には出てこなか工業高校との連携による地域文化の掘り起こし・若い世代と、いっしょに汗を流して、アイデアを出し合おう! 世代を超えて「共感」が生まれる!

5 計画の実施の効果

- (1) まず、観光振興・地域活性化に向けて、この実行委員会に参加した21の団体実行委員の「意識付け」が大きく変わったことが挙げられます。これまで市の商業観光課や観光協会に任せきりだった「自分たちが暮らすまち」の観光振興・地域活性化について、素人の自分たち自身が「傍観者から抜け出して」「いったい何ができるのか? 考え」、そして、自分たち自身が悩み、創意工夫・努力し、そして、「行動」に結び付けようとして取り組んだ体験は、この「オール延岡人!! 市民みんなでスクラム組んで!! いっしょにやっちみろや!! 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化実行委員会」に参加した多くの団体の実行委員にとって初めての経験で、もちろん成功例ばかりではなく、戸惑いの方が多かったが、「地域文化をまちづくりに活かす」という視点も変わり、まちづくりに向けての「意識の変革」が起きたことが大きな効果でした。目に見える成果よりも、「意識変革」が大きな第一歩だったと思います。
- (2) 小さな小さな地域活性化への発想と行動の積み重ねから、「できた!」という喜びの貴重な体験を実行委員が味わうことができ、今後の自信につながり、観光振興・地域活性化に向けて、小さな一歩を踏み出すことができました。延岡には、となりの県の「熊本城」のような全国の人が振り向く大きな文化遺産はありませんが、身の回りの身近な地域文化遺産に目を向けてたいせつに掘り起こし、地域を活性化する動きが出てきました。たとえば、農村地域の「出北(いできた)」では「藤江監物祀り音頭を守る会」が、「あんたどん、知っちゃうけ? 出北ものがたり」という歴史観光冊子

を作ったり、「出北旧ばんば音頭を伝承する会」は「岩熊井堰観光うちわ」を作ったり、農村地域にふさわしい第一回「新嘗祭」を、住民自身の力で開催できて、地域に元気がでてきました。住民の潜在力で「等身大のまちおこし」に取り組むことができました。

- (3) 本市の場合、今回の文化庁補助事業に21もの考え方も経験も違う団体や実行委員が一つになって、「オール延岡人！！ 市民みんなでスクラム組んで！！ いっしょにやっちみろや！！文化遺産を活かした観光振興・地域活性化実行委員会」を結成しています。その多くの団体が、平成15年度から8年間続いた文化庁「伝統文化こども教室」事業の採択を受けて、地道にひたすら伝統文化の伝承に取り組んできましたが、これまで「観光振興・地域活性化」ということには無縁に近かった。まさか自分たちが、観光振興・地域の活性化に取り組むとは考えていなかった実行委員ばかりでした。慣れておらず、戸惑い、悩みながらも、地域文化を見直し、いったいどうしたら観光振興・地域の活性化につながるのかという課題に誠実に取り組むことができました。
- (4) 「伝統文化こども教室」事業で地道に築いてきた本市の特徴を、この「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の中でも、引き続き活かす努力をし、地域の文化遺産継承事業や体験事業により多く取り組むことで「単なる流行に終わらない」観光振興・地域活性化の住民活動の根をしっかりと下ろすことができました。生半可な知識の上に築かれた「はりぼての観光振興・地域活性化」の住民の芽は、すぐに枯れてしまいます。地域文化に対する深い洞察力と、確固たる基礎力に裏打ちされていない、付け焼刃で、性急な、早く結果を求める「観光振興・地域活性化」活動は、すぐに冷めてしまうと思うのです。
- (5) 陸続きではない、人口千人余りの離島 島野浦では、島ならではの言い伝えや「海の文化」「離島の文化」に本実行委員会の「海の文化『離島 島野浦西国三十三ヶ所観音様巡り』保存会が着目、延岡観光協会



北方町「早日渡（はやひと）冬祭り」
住民総出で、地域伝統行事「早日渡冬祭り」を祝います。
お神輿行列が、早日渡集落内の各「御旅所（おたびじょ）」まで練り歩きます。

と連携し、「感動体験泊覧会『えんぱく』」と歴史講演会を11月に開催。さらに、平成24年3月には、観光庁の「国内スポーツ観光モニターツアー」として『神秘的島と山幸彦の里でスピリチュアルトレッキング』も計画されるなど離島の観光に弾みがついてきています。離島の住民が、自分たちが暮らす離島が秘めた魅力・潜在力を認識しはじめました。

- (6) 本実行委員会の「kongeeenaのべおか」がスマートフォンを活用し、古地図などを見ながらまち歩きを楽しめるソフト スマートフォンアプリ『ブラリ、ノベオカ』を製作し、歴史のまち延岡を探索できる、主に若者を対象とした観光開発に取り組みました。このスマートフォンアプリには昭和7年から昭和28年までの古地図3点を掲載していて、特に「大正時代の広重」といわれた絵師 吉田初三郎による昭和20年代後半の延岡市の鳥瞰図は、戦後復興期を終え、高度成長期に入ろうとする延岡市の様子をよく伝えており、この開発ソフトを使ったまち歩きに楽しいストーリー性を附加しています。
- (7) たとえ観光の中心・観光事業の主体にはなれなくても、「脇役として“おせったいで”サポートできる観光」を、本実行委員会の「表千家 径友会」が、若山牧水延岡顕彰会の企画・実施した「歌人牧水歌碑巡り」ツアーのお茶のせったいで実践し、参加者の心をなごませることができ、好評でした。
- (8) 延岡のまちの中心部の観光振興・地域活性化だけに力点をおくのではなく、今回の「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の取り組みを通して、周辺部の地域文化・地域活性化にも目が注がれるようになって、目立たない文化の掘り起こしも取り組まれました。
- (9) 本実行委員会の21団体は、アイデア・創意工夫を出し合って、観光振興・地域の活性化に積極的に取り組んだつもりでも、観光協会サイドでは、すぐに成果が目に見える「即戦力」を期待しており、地域文化を息の長いスパンで伝承しようとする本実行委員会との思惑の差が出て、歯車がかみ合わない場面も多々ありました。「お金が落ち、地域経済がうるおう」ことをめざす観光サイドと、地域文化を純粋に伝承していこうとする保存会との温度差を感じました。
- (10) さまざまな行事を開催するたびに地域の文化の情報発信不足を痛感しました。延岡市のさまざまな地域文化を総合的に紹介するホームページ制作の必要性を強く感じました。

市民と共に育て継承する奄美遺産事業

(平成23年7月～平成25年3月)

1 計画の概要・実施体制

奄美市では、宇検村（奄美大島）・伊仙町（徳之島）の3市町村合同で、平成20～22年度に「文化財総合的把握モデル事業」を実施させていただき、奄美群島（有人8島、総人口約12万人）全域を視野に入れた広域的な文化行政の実現に向けた土台づくりを進めてきました。その過程で、それぞれの地域の自然・歴史・文化について知ることができるあらゆる文化遺産群について、「奄美遺産」として位置づけを行い、奄美群島の文化財を総合的に把握する取組を実践してきました。

奄美遺産は、各集落における生活の場の中から創出された身近なものですが、その背景にはそれぞれ異なる環境的・歴史的・文化的意味があります。それらを築き、継承してきたお年寄りたちこそは、奄美遺産群を保持する「博物館」として理解できます。

そこで「文化財総合的把握モデル事業」の成果を踏まえ、市民生活の空間に息づき継承されてきた自然・歴史・文化に関わる奄美遺産について、各地域でお年寄りに学び、その情報を地域住民が共有できるような取り組みを推進することで、身近な生活の場にある奄美遺産を保護活用する市民活動として活発化させ、市民共同のまちづくりへの参画を促すことを企図したのが「市民と共に育て継承する奄美遺産活用事業」です。本市で地域の文化活動の指導者の存在である文化財保護審議会委員のみなさんを中心に「奄美遺産活用実行委員会」を組織して、本事業に取り組んでいます。

2 補助事業名

- ①市民と共に育て継承する奄美遺産
- ②小湊フワガネク遺跡を学び地域活性化に活用する事業

3 補助事業者名

- ①奄美遺産活用実行委員会
- ②奄美市

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①市民と共に育て継承する奄美遺産

○古い資料から学び継承する活動支援事業
奄美群島には、どのような古文書があるのか、それらはどこに保管されているのか、どのような歴史が解るのか、解読されているものがあるのか、それらはどこで利用できるのか等、古文書に関する基礎的情報を市民が入手するのは容易ではありません。そこで、奄美群島の古文書に関する基礎的情報をあらためて整理、わかりやすい史料解題を付けた目録作成に取り組みます。また啓発活動として学習講座等を複数開催して、関心ある市民の

掘り起こしを図り、自分たちの身近にある歴史情報をさらに追加していく市民活動に展開させていきます。

○自然と文化（食）を記録・継承し伝える調査事業
旧暦に基づいて行われる奄美群島の年中行事や伝統的生業について、細かい季節の変化に着目しながら、海・山・里における生業調査・植生調査等を実施して、季節の食材と伝統的食文化を具体的に把握していきます。また薩摩藩統治時代（江戸時代）に残された『南島雑話』『桂久武日記』等の史料からも伝統的食文化等の調査を行い、現在伝えられている伝統的食文化と比較、料理の変化等も調べながら、「地域」における「季節」と「食材」、「行事」と「料理」の実態を把握していきます。そうした調査成果をふまえて、伝統的食文化の継承と観光資源としての活用にもつづけていきます。

○伝統漁法（海垣・石干見）の保護継承活動支援事業
干潟等の遠浅の海岸に石を積み上げ、潮の干満差を利用した伝統的漁法である「海垣」（カキ・インカチ）「石干見」（イシヒビ）等は、日本国内において、九州から南西諸島に地域に分布しています。奄美大島でも複数の「海垣跡」の存在が知られていますが、伝統的漁法としては、既にほとんど機能していない状態にあり、海岸線における土木工事等の影響等も受け、消滅の危機に瀕しています。今回、九州から沖縄に至る各事例について、分布・構造・使用方法等に関する基礎的報告や環境教育や観光資源の活用報告等のフォーラムを奄美市で開催して、奄美における文化遺産としての「海垣」の保存活用の方向性や、地域における取り組みの課題や観光資源としての可能性を探ろうとするものです。

②小湊フワガネク遺跡を学び地域活性化に活用する事業

平成22年度に国史跡として指定された小湊フワガネク遺跡ですが、遺跡の学術的価値等が地域住民に十分浸透していない様子も認められるので、講演会・体験講座等を学校・集落の双方で開催して、地域住民に理解の浸透を図ろうとするものです。具体的には、小湊フワガネク遺跡に造詣の深い専門家等による講演会、また遺跡の特徴である貝製品生産を学習用にアレンジしたヤコウガイ製アクセサリーの製作体験講座等を開催していきます。また遺跡範囲全体の半分は、まだ史跡指定に至らないので、地域住民の理解を深め、地権者の理解を得るための資料として、小冊子を刊行して、全戸配布していきます。

5 計画の実施の効果

①市民と共に育て継承する奄美遺産

○古い資料から学び継承する活動支援事業
奄美群島の古文書に関する基礎的情報が整備され、事業に指導協力いただいている石上英一氏（人間文化研究機構理事）による史料解題が行われ、専門家にも地域住

民にも検索や利用が非常に難しい奄美群島の古文書の利用環境が劇的に改善されはじめています。当該事業に関連して、平成24年1月には、「情報処理学会」の人文科学とコンピュータ研究会の奄美研究会が奄美市立奄美博物館で開催され、全国から20名の専門家が参加、本事業で取り組んでいる奄美群島の古文書情報について、多数の研究機関と共有することができました。また平成24年2月には、鹿児島県下第2位の規模を誇る本市の屋仁川飲食店街について、歴史フォーラムを奄美市立奄美博物館で開催、150人を超える市民の参加者がありました。社交飲食業組合でも、歴史的由緒ある飲食店街という理解が非常に深まり、今後も同様のイベント開催を希望する要望が出るなど、市民の幅広い層に歴史情報が浸透しはじめた成果が感じられます。



地元飲食店街を取り上げた「ヤンゴ歴史フォーラム」

○自然と文化（食）を記録・継承し伝える調査事業
現在でも地域住民に用いられている旧暦を基軸として、「季節」（自然の変化）と「食材」、「行事」と「料理」という基本的視点が、事業に取り組むスタッフ・協力者等で確認、共有できた部分は大きな収穫です。この視点から、地元のコミュニティFM放送局でも番組制作がはじまり、地域の「旧暦」と「季節」に基づいた新しい地域の文化情報発信番組が誕生しそうです。毎日10,000人以上のリスナーが聴いている地元FM放送で、こうした情報発信に取り組めるほど理解が向上させられたと思われる。また調査成果を活かして「季節」「食材」「行事」「料理」が一目で解る「旧暦カレンダー」を作成して、市民から大好評をいただいています。



市民に大好評の旧暦表記のカレンダー

○伝統漁法（海垣・石干見）の保護継承活動支援事業
まだフォーラム開催しておりませんが、奄美大島・加計呂麻島で確認されている「海垣跡」について、地域住民・行政・観光業界等に、奄美遺産として貴重なものであることを普及させることができると考えています。また日本各地の保存活用の取り組み事例を学ぶことで、学校現場と連携を図り、干潟の海環境学習・郷土学習等に活かし、地域で保存活用に取り組む契機を創出できるのではないかと期待しています。「海垣跡」の理解が正しく図られることで、周遊型観光における新しい観光資源として、すぐにも観光ガイド業界では活用が可能とな

るはずです。

②小湊フワガネク遺跡を学び地域活性化に活用する事業

ヤコウガイ・アクセサリー製作講座は、既に人気講座として定着しており、小湊フワガネク遺跡が所在する校区内の小中学校、博物館等で製作講座を繰り返し開催、地域住民や観光業界に小冊子の配布を進めていることで、理解の浸透が図れていると思います。



国指定史跡・小湊フワガネク遺跡に隣接する奄美市立小湊小学校での体験講座



小湊フワガネク遺跡について解説した普及用の冊子

市民向けに開催する講座では、たとえば、土日の午前・午後に合計4回開催すると、定員30人募集に対して、毎回50人を超える申し込みがあり、土日だけで200人近い市民が講座に参加、講座を通して小湊フワガネク遺跡の学習をしていただいています。奄美大島・加計呂麻島でも、講座受講者がヤコウガイ・アクセサリーを観光商品化する事例が増加しており（現在約15業者）、小湊フワガネク遺跡やヤコウガイが観光振興に利用されはじめた手応えも感じられます。



市民に大人気のヤコウガイ・アクセサリー（完成品）

年間を通じて雨天の多い奄美大島で、特に雨天時の観光商品としてヤコウガイ・アクセサリー製作体験の普及が一層期待される場所です。平成24年1月には、世界遺産「平泉の文化遺産」の中尊寺金色堂で小湊フワガネク遺跡の特徴でもあるヤコウガイが大量に使用されている関係で、八重樫忠郎氏（平泉町役場）を招いて講演会開催をしました。現在、奄美大島が世界自然遺産を目指しているということもあり、市民・行政・観光業界等、約180名の参加者がある盛況な講演会となりましたが、現在、平泉町役場とヤコウガイを材料とした文化交流事業の計画もあり、他地域とのネットワーク構築が進んでいるのも事業の成果です。

6 今後の予定

今年度で「市民と共に育て継承する奄美遺産活用事業」は終了となりますので、今後、本事業で作成してきた各種の基礎的情報を誰でも利用していただけるようインターネット上で発信するための取り組みを進めていく必要があると痛感しています。



「琉球発祥の地：南城」に伝わる伝統文化活性化プラン

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

南城市には琉球王朝時代から連綿と受け継がれている数多くの伝統的な行事・芸能があります。中国の冊封使にも献上された獅子舞、五穀豊穡・稲作起源に由来する行事、広域的な巡礼行事など、それらは深い歴史的背景に裏打ちされた南城市ならではの文化遺産の特徴です。さらに、それらを行う場所はグスク（城）やカー（井泉）、御嶽・拝所等であり、上記行事と歴史的・有機的に深くつながっており、「総合的」に今も地域に存在し大切に受け継がれています。

上記の伝統行事については、数多くとは言えないまでも16mmフィルムや写真などに記録されていましたが、先に終結した第二次世界大戦において焼失したものが多く、今では残された資料と年配者からの聞き取りを記録する作業を行いながら、行事を受け継いでいるのが現状です。

本市では、「文化財総合的把握モデル事業」により、平成20年度から平成22年度にかけて「南城市歴史文化基本構想・保存活用計画」を策定しました。この計画は、地域の文化遺産を総合的に保存、活用することを目指しており、文化遺産を核にした合併後の新しいまちづくりや、地域住民の参加による地域の各種施策を統合した、一貫性のある取り組みを行うためのマスタープランです。

「琉球発祥の地：南城」に伝わる伝統文化活性化プランはこの「南城市歴史文化基本構想活用計画」に基づ

き、様々な角度から情報発信・後継者育成等を行います。地域住民の行事への取り組み・啓発を促し、さらに、直接見たり手に触れたりする機会の少ない考古資料等の資料映像を配信していきます。現在、博物館や資料館といった施設を持たない南城市においてそれらの資料映像を配信することは、研究者や市民だけでなく多くの方々へ文化遺産の大切さをアピールする機会につながり、文化財保護の観点からも大変有意義であると考えられます。

計画における主な事業としては、南城市大里の西原区アミシ綱づくり、南城市知念の知念区にある稲の発祥地ウファカルの田植え体験及び稲刈り体験、市内有形民俗文化財のパノラマ写真撮影、市内無形民俗文化財のデジタルハイビジョン撮影、文化遺産ホームページ制作、文化遺産スマートフォンアプリ制作等を計画して進めています。

本事業については、沖縄県南城市が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行います。主な担当課と役割については以下のとおりです。

文化課

本事業に係る事務手続き、記録文化財の選定、表示情報の監修、文化財取り扱いの指導等。

観光・文化振興課

文化遺産と地域の結びつきの強化及び観光振興へ活用するための付加価値化の検討、シュガーホールを活用した発表の場の創造と持続的な継承を促す為の取り組み、



スマートフォン用アプリケーション「南城ナビ」



文化遺産ポータルホームページ「南城ナビ」

既存の伝統文化を活かした新たな文化の創造。

情報推進課

観光客、住民が歴史文化特性をしっかりと理解するためのICTを活用した情報発信の仕組みづくりについて検討。

また、事業の実施については、南城市、南城市文化協会、南城市観光協会、西原区、知念区の代表で構成する南城市伝統文化活性化実行委員会が実施します。

2 補助事業名

・「琉球発祥の地：南城」に伝わる伝統文化活性化プラン

3 補助事業者名

・南城市伝統文化活性化実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①継承事業

- 西原区のアミシ綱曳きに使われる綱づくり
- ・毎年区の行事として行われている綱曳きに使われる綱

を区民3世代でつくり、伝統行事への参加を促し、後継者養成を図ります。

内容としては、平成23年11月27日(日)、12月4日(日)の2日間で延べ80人の大里区民により綱作り作業を行いました。綱作り経験者の指導の下、全員で協力し完成しました。

②体験事業

○知念区「稲作発祥地」復元事業

知念区にある稲作発祥地と伝えられるウファカルについて、周辺住民を中心に歴史体験学習を実施して地元の歴史について追体験する機会を作り、「ウファカル」の周知を図ります。また、その歴史的な背景を検証し、資料収集を行い、稲作発祥地としての復元を目指します。

内容としては知念区の住民を主な対象として、ウファカルでの歴史体験学習（田植え）を行いました。文化財ガイドによる知念城跡を中心とした文化財についての学習を行い、田植え作業を行いました。

③記録作成事業

- 多方向ハイビジョン無形民俗文化財映像記録
- ・市内の無形民俗文化財を正面からの1視点だけではな



無形民俗文化財多方向撮影特設ステージ



有形文化財VRパノラマ撮影の様子（佐敷上グスク）

く、多視点からの同時撮影により、継承を目的とした資料映像と娯楽視聴の両面に対応する魅力的な映像記録を取ることを目的に行いました。

内容としては、体育館に撮影用特別セットを設け、照明により演舞者を浮かび上がらせ、前後左右、真上の多視点から7台のハイビジョンカメラによる多方向同時撮影で記録しました。平成23年度は、市内4団体の伝統芸能演舞を撮影しました。また、タブレット型端末のiPad用デジタル教本アプリケーションを制作し撮影した映像を配信しています。

○有形文化財VR（仮想現実）パノラマコンテンツ記録

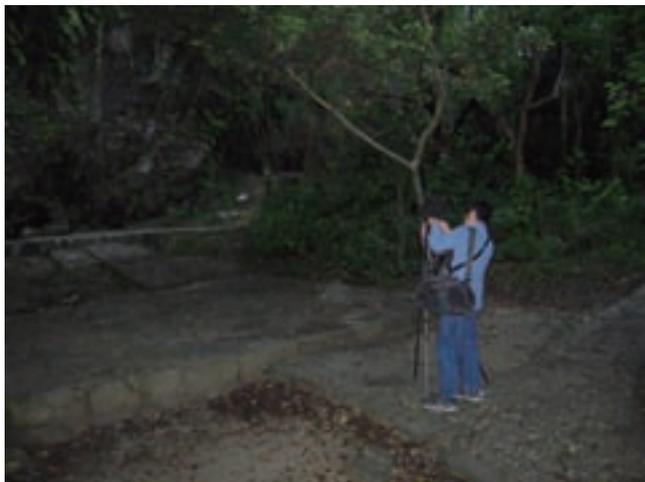
市内の有形文化財を対象に、学校教育、生涯学習の教材や観光振興のための映像資料としての活用を目的として、周囲全方向の高精細写真で記録し、デジタル合成技術によりパソコン上でまるでその場に立っているような



ipad用アプリケーション無形民俗文化財デジタル教本「南城演舞館」

臨場感のある全方位の写真閲覧を行えるコンテンツを制作しました。

内容としては、高精細デジタルカメラにより、天地面を含めた360度写真撮影を行い、合成技術により利用者



VRパノラマ撮影の様子（斎場御嶽）

の見た方向すべてを閲覧可能になる基礎記録を行いました。

④情報発信事業

記録作成事業で撮影した有形文化財、無形民俗文化財を観光振興、地域振興に活かすことを目的として、文化遺産の位置情報と市内の観光施設、商業店舗情報を融合させた情報発信機能を構築しました。

内容としては、記録作成事業で制作したコンテンツを発信するため、文化遺産ポータルホームページを制作しました。また、急速に普及が進んでいるスマートフォンでも閲覧できるようアプリケーションを制作しました。さらに、市内の主要観光地に設置する電子掲示板機能となる文化遺産案内デジタルサイネージも制作しました。

5 計画の実施の効果

平成23年度計画を実施した効果として、まずは地域の文化遺産の保存継承を充実することができたことがあげられます。西原区アミシ綱曳きは毎年行われている地域行事の一つですが、長年綱作りは行われていませんでした。今回、この事業において地域住民が協同で綱作りを行ったことで、綱作りをしたことのない若い世代へ伝統行事の継承を行うことができました。2日間にわたり、



西原区 綱作りの様子



西原区 綱作り完成

延べ80人程の区民が集まり、老若男女それぞれで役割を分担し、コミュニケーションを取りながらの作業を通し

て、住民の地域文化への思いや一体感が一層増しました。

また、知念区にある稲作発祥地と伝承されているウファカルについて、実際に訪れたことのない地域住民も多く、今回、歴史体験学習を行ったことで、これまであまり知られていなかった文化遺産への理解、関心が得られました。12人の参加者からは、「普段なかなかできない体験ができ、参加してよかった」「毎年田植え体験ができるようになったらいい」等の感想があり、地域文化の振興の為、区が主体となりウファカルを活用していくためのきっかけとして、一定の効果が得られました。

地域の文化遺産に関する記録作成を目的として行った無形民俗文化財多方向撮影においては、参加団体から「動きを多角的に見られ、保存・継承する上で有効だ」等の感想がありました。タブレット型端末のiPad用デジタル教本アプリケーションの利用も含め、今後さらなる活用が期待できます。

有形文化財VR（仮想現実）パノラマコンテンツ記録は文化遺産ポータルホームページ、スマートフォンアプリ用アプリケーション、デジタルサイネージいずれからも閲覧でき、これまで訪れるのが困難な場所にある文化財について、どこからでもその場にいるような疑似体験をすることができます。平成24年4月の南城市大里庁舎



知念区 歴史体験学習の様子（知念城跡）



知念区 歴史体験学習の様子（田植え）

市民ギャラリーオープンセレモニーの際にも、大型タッチパネルを利用して多くの人に体験していただき好評を博しました。

文化遺産ポータルホームページ、スマートフォン用アプリケーションは徐々に認知されてきており、平成24年3月から7月現在までアクセス数382、スマートフォン用アプリケーションのダウンロード数が329となっています。今後さらなるコンテンツの充実により、より多くの活用が見込まれます。

6 今後の予定

平成24年度は、10月に開催される南城市祭りの展示会場において、平成23年度に制作した大里西原区のアミシ綱を展示し、広く市民に公開するほか、知念区の稲の発祥地「ウファカル」での稲刈り体験を行います。また、平成23年度に引き続き、多方向ハイビジョン無形民俗文化財映像記録、有形文化財VR（仮想現実）パノラマコンテンツ記録を行い、事業内容の充実を図ります。

平成25年度は、伝統芸能関連の古い写真のデジタル化による保存と市民ギャラリーでの展示及び配信、貴重な文化遺産関連刊行物の電子書籍化と公開による学校教育・生涯学習現場での活用のための記録作成事業、情報発信事業を行う予定です。



知念区 歴史体験学習の様子（田植え準備）